

新刊紹介

小型カメラによる天体写真 藤波重次著、共立出版 KK 発行、B 5 判、163 頁、650 円。

最近市販のフィルムの感度が非常に高くなり、小型カメラを使って、見ばえのするような天体写真を写すことは、10 年前とは比較にならないほど容易になった。小型カメラでは、広い写野をカバーできること、短焦点のため引伸した時星像が大きくて見やすいことなどのために、星野撮影に特にすぐれた利点がある。そのためにカメラを持った人たちから、天体写真をうつして見たいという希望を聞くことはしばしばである。けれども何か手頃な参考書をとっても、残念ながら推薦できるような良書が見当たらないのが実状であった。

この時この方向のベテラン藤波重次氏によって、表題の書物が上梓されたことは、この渴望を医されたものとして歓迎したい。

本書は第 1 章カメラ、フィルム、天空の条件、第 2 章天体の見えかたと動き、および写真像との関係、第 3 章静止カメラによる星の撮影、第 4 章フィルムの現像、第 5 章星野写真のプリント、第 6 章月と太陽の撮影、第 7 章位置の測定の各章から成っている。初めの 2 章は予備的な心がまえを示し、第 3 章から第 6 章までの 4 章は実際の天体撮影と現像についての技術で、本書の核心ともいべきところである。そして最後の第 7 章は整理的な技術をのべている。なおさらに慾をいえば、第 3 章の個々の天体の撮影のところに、流星、黄道光、銀河、周極星などを、また第 5 章のプリントのところで、焼つぎの方法などにも充分の説明がほしかった。しかしこれは難を得て蜀をのぞむ底のものであって、概観して各章とも解説は平易且懇切で、また所々にはさまれた多数の天体写真殊に星野写真の作例は、これを見ているだけでも美しく楽しく、これなら一つ自分もやって見ようかと、撮影意欲をうえられること充分である。カメラをお持ちの会員諸君の座右に一本をおすすめする。(下保 茂)

太陽・月・惑星 村山定男著、ポプラ社発行、A 5 判、120 頁、500 円。

東京ポプラ社の「天文気象図鑑」の第 1 巻である村山氏の「太陽・月・惑星」が刊行され、このシリーズ全 8 巻が完成した。

豊富な写真や図鑑と美しいカラー印刷などで、小学校高学年から中学生を対照としたと思われるこのシリーズは最近の宇宙開発を身近かに感じている少年たちの大きな贈り物である。

村山氏の著書は、太陽をはじめ、月・惑星など太陽系

に属している天体についての、今までの研究、のこされている問題などを、平易に解りやすい文章で書かれたもので、説明図も著者の考案による新しいものが、随所に採用されていて理解をたすけるようになっていく。写真なども、最新のものが使われ、眺めているだけでも、楽しくなるのがこのシリーズ全巻の特長である。

(富田弘一郎)

宇宙探訪 荒 正人編、新書版、281 頁、280 円、講座社発行。

これは文明批評家として知られている荒正人氏が、9 名の天文学者とインタビューして対談を行った記録を集めたものである。9 名とは、広瀬秀雄、宮本正太郎、村山定男、竹内端夫、長沢進午、牛来正夫、畑中武夫、江上不二夫、小尾信弥の 9 氏である。ことに天文学会関係者にとってなつかしいのは、畑中武夫氏の特徴ある話し言葉がそのまま納められていることである。

内容を通読して考えさせられることは、同じ天文学書でも天文学者によって書かれたものと、そうでない人によって書かれたものとはちがうということである。天文学者の手によって書かれた天文学書は多い。しかしどうもそれ等は“天文学者臭さ”があるのである。つまり天文学者は自分の知識をあるていど体系的のべようとするし、又学界でまだ定説となっていないことには、用心深さを示すし、素人が知りたいようなことは、もったいぶってなかなか話さない。これに比べてこの本はそのものズバリである。天文学者がものを書く場合もこのような持ち味は参考になるだろう。

9 氏はおのおの自分の専門について、最近の話題を豊富に盛って話される。所々に挿入されているマンガも面白く、とても天文学者のごとき貧弱な(?)センスをもっている輩に作れる本ではない。

編者の荒正人氏は“地球以外の天体にも生物の住む世界はあり、その世界にもやはり社会というものは存在する”という考えに立つて、地球上の人間世界を客観的にながめて見ようという立場に立っておられる。この本の話の焦点もそこにしぼっており、特に“宇宙生物”を扱った項目では、荒氏自身筆をとつて数頁の解説をされるという熱心さである。天文学者でこのような観点に立って仕事をしている人があるかな、と考えると、この本の特徴がよくわかるだろう。

ブルーバックスという叢書の 1 冊。これは“科学朝日”に“宇宙への眼”という題で昭和 38 年 1 月から 6 月まで連載された座談会を骨格として補充、加筆されたものである。

われらの宇宙 M. ミルマン著、村上忠敬訳、B 6 判、145 頁、350 円、恒星社厚生閣発行。

これは天文学全般のやさしい解説書で、1961 年春に

なされたカナダ CBC 放送のラジオ大学講座の8回の講演をまとめたものである。望遠鏡の話からはじめて、太陽系天文学からギャラクシー、宇宙論に至るまで、てぎわよくまとめている。

著者 Peter Mackenzie Millman 氏はカナダ王立天文学会会長・カナダ学術会議上層大気研究部長などの職にある方で、訳者の村上忠敬氏とは、流星天文学の分野で旧知の間柄である。更にわれわれにとつて興味深いことは、Millman 氏は旧制高等学校卒業まで日本で教育を受けられたとのこと、第二の故郷である日本で著書が訳されることは、Millman 氏自身切望しておられ、昨秋来日された際に村上氏が邦訳の約束をされたものである。

原著名は This universe of space. という、Universe と Space との英語のもつニュアンスを生かした面白い題名である。
(以上二項関口直甫)

その他の新刊天文書

▷ **天体の科学 地球から月へ** アンリ・ファール著、市場泰男訳、A 5 判、256 頁、450 円、さ・え・ら書房発行。

有名な昆虫記をあらわしたファールによる天文学解説書。百年近く前に書かれた古典として興味ある。

▷ **地球・太陽・月** 守山史生著、A 5 判、222 頁、380 円、さ・え・ら書房発行。

小・中学生むきのやさしい天文学解説書。

▷ **そこに宇宙があるからだ** 佐貫亦男著、新書判、226 頁、240 円、講談社発行。

ツイオルコフスキー以後のロケット製作者の群像をえがいたもの。日本の糸川英夫氏の紹介もある。

▷ **新版全天恒星図** 広瀬秀雄、中野 繁著、A 4 判、76 頁、1000 円、誠文堂新光社発行。

学会のページ

賛助会員名簿

(会社名)	(代表者)
旭光学工業株式会社	代表者 鈴木幸三郎
朝日新聞社科学部	代表者 高津 真也
アジア航空測量株式会社	代表取締役社長 柏木 秀一
アストロ光学工業株式会社	取締役社長 小松 良基
岩波書店	代表者 岩波雄二郎
応用電気株式会社	代表取締役 唐沢 大介
オリンパス光学工業株式会社	取締役社長 中野 徹夫
笠井出版印刷社	取締役社長 笠井武千代
梶原電気株式会社	取締役社長 梶原 家富
カールツァイス株式会社	代表者 Johannes Maaz
関東電気工業株式会社	取締役社長 関井 忠夫
関西電力株式会社	取締役社長 芦原 義重
甲南カメラ研究所	代表者 西村 中子
五藤光学研究所	取締役社長 五藤 省三
金光教本部教庁	代表者 金光鑑太郎
三栄測器商行株式会社	取締役社長 丘山 欽也
三省堂	取締役社長 亀井 要
島田理化学工業株式会社	取締役社長 実 武夫
新電子工業株式会社	取締役社長 山本 和一
誠文堂新光社	取締役社長 小川誠一郎
測機舎株式会社	取締役社長 西川 米三

太陽社	取締役社長 弘田 道淳
電気興業株式会社	取締役社長 萩原 憲三
天文博物館五島プラネタリウム	理事長 五島 昇
東京精密測器株式会社	取締役社長 池辺 常刀
東京電力株式会社	取締役社長 木川田一隆
東光通商株式会社	代表取締役 小幡 三雄
東陽通商株式会社	取締役社長 奥村喜和男
ナルミ商会	代表取締役 村上 俊男
日米商会	取締役社長 高野 高之
日本アイ・ビ・エム株式会社	代表者 佐藤 静夫
日本光学工業株式会社	取締役社長 白浜 浩
日本出版貿易株式会社	取締役社長 望月 正捷
日本平富士観光センター天文台プラネタリウム	代表者 坪井 正
早川電気工業株式会社半導体技術部	代表者 馬場幸三郎
林建設株式会社	取締役社長 林 米一郎
毎日新聞社学芸部	代表者 角田 明
丸善株式会社	代表取締役 司 忠
三鷹光機株式会社	代表者 棒沢 孝明
三井造船株式会社	代表取締役社長 田中 繁松
三菱電機株式会社	代表者 佐藤 貞雄
ミノルタカメラ株式会社	取締役社長 田島 一雄
八洲測量株式会社	取締役社長 西村 正紀
九州電力株式会社	社長 赤羽 善治
中部電力株式会社	社長 横山 通夫

新入会員

(会社名)	(代表者)	(住所)
日本鋼管株式会社	代表者 赤坂 武	東京都千代田区大手町1の2
倉敷レイヨン株式会社	社長 大原 総一郎	大阪市北区梅田8